



**させぼ夢大学**

発行 ● させぼ夢大学広報委員会  
事務局 / 〒857-0863  
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F  
TEL.0956-25-9555  
FAX.0956-25-9545  
http://www.yumedai.com/  
E-mail:sasebo\_yumedai@yahoo.co.jp

お尋ねテレホン 25-9556

# 夢のつづき

## させぼ夢大学会報

No.191 <2011・2>

平成22年度  
第10回

2011年 **2月17日(木)**

アルカスSASEBO 大ホール

●開 場 午後 5:30  
●夢のひろば 午後 6:00  
●講 演 午後 6:30

倍賞千恵子さんは東京の下町に育ち、昭和35年松竹音楽舞踊学校を首席で卒業、松竹歌劇団(SKD)へ入団されました。初舞台は同年のグランドレビュー「東京踊り」です。首席入団生にはフィナーレの先頭を切って大階段を降りる栄誉が与えられ、倍賞さんはその初代を務められました。翌年松竹にスカウトされ映画や舞台の活動が高く評価され、芸術選奨文部大臣賞他、日本アカデミー賞最優秀主演女優賞など多くの賞を受賞。映画デビューから166本の出演を数え、その内の48本が「男はつらいよ」で寅次郎の妹「さくら」役です。この映画で庶民派女優としても非常に高い評価を得られました。

また、倍賞さんの透き通った明る



さの中にも哀愁が滲む歌声は、歌謡曲からポピュラー、スタンダードに童謡、唱歌まで幅広いジャンルを歌いこなせることに加え、日本語の発音の美しさから、その人気を不動のものとしていっています。

このようなこれまでの功労が認められ、平成17年春、紫綬褒章を受章されました。芸能活動を続けてこられた「千恵子流」の原点は、舞踊学校時代に「礼儀作法」「お掃除の仕方」「目上の人への挨拶」をしっかり叩き込まれたこと。一生懸命やれば、形となり成果が出てくることを身をもって学んだとおっしゃる倍賞さん。今回の講演は10年ぶり2回目となります。どうぞ、お楽しみに。

ばいしょう ち え こ  
女優 ● **倍賞 千恵子氏**

テーマ ● **歌うこと、演じること、そして生きること**



### 次回のご案内

- と き / **4月21日(木) 開講式**
- 講 師 / 政治評論家 **三宅 久之氏**
- テーマ / **今 政治に何が起きているか**

●昭和5年東京都出身。早稲田大学卒業後、毎日新聞社。政治部副部長、特別報道部長等を歴任。51年に毎日新聞社を退社後、政治評論家となる。コメンテーターとして多くの番組に出演し、政界の裏表を知り尽くした政治評論と歯に衣着せぬ辛口社会時評が人気。テレビ朝日「ビートたけしのTVタックル」読売テレビの「たかじんのそこまで言って委員会」レギュラー出演中。「ニュースが伝えない政治と官僚」(青春新書)など著書多数。

### 倍賞 千恵子 氏のプロフィール

●東京都生まれ。昭和35年、松竹音楽舞踊学校を首席で卒業。同年松竹歌劇団(SKD)へ入団。36年松竹映画「斑女」でデビュー。37年、「下町の太陽」でレコード大賞新人賞を受賞。44年映画部門では4人目の芸術選奨文部大臣賞を受賞。「男はつらいよ」のさくら役に代表される庶民派女優として、延べ166本に出演。また、歌手としても親しまれ活躍中。著書に「お兄ちゃん」「倍賞千恵子・お料理の知恵袋」がある。





加来耕三氏



歴史と聞くと学生の頃、否応なく受験のために苦勞して覚えた年号が思い出される。興味なく覚えた知識は身につくはずもないが、今回の講演で「立ち止まって判断する」という、歴史を日常生活や仕事に活用できる考え方にうなずかされた。歴史上の英雄で人気があるという織田信長、坂本龍馬、諸葛孔明をアリバイのないよくわからない人達だ、と共通点をあげ、奇跡や偶然満載の大河ドラマをバツサリ。歴史は疑ってかかれとの

**答えは常に反対側にある**  
佐世保市千原町 中原 多恵子

ことであつた。情報社会の中、眼や耳から入って来る報道のみに心身を奪われ(右手の法則)、隠された見えない真実(左手の原理)をなかなか知ろうとしない日本人への警鐘と受け取った。これからはいかに前兆現象(未発の発芽)をとらえるか、また過去の歴史をどう学び、どう活用するかが未来への鍵となるだろう。「答えは常に反対側にある・・・」心しておきたいと思つた。

**夢とロマンの歴史学**  
佐世保市東山町 中溝 悦美

最初に、一度は自分の講演を聞く価値があるとおっしゃった加来耕三さん。さすがでした。どうすれば過去の歴史を今の生活に活用出来るか。また、歴史に学ぶとは、

1. 立ち止まって考える
2. 歴史を疑って考える
3. なぜそうなるのか、等々

歴史における右手の法則・左手の原理、つまりすべて左右のバランスを考えるとということでしょう。

未発の発芽とはすなわち前兆



■「歴史から学ぶ知恵、すべての答えが過去にある」けだし名言である。早速、3つのおまけの内の一つ、インターネット「あらたにす」の中の「新聞案内人」を「お気に入り」に登録したので、これからじっくり加来節を堪能したいと思います(無料でラッキー)。  
佐世保市光月町●国松 仁志

■新春にふさわしい夢のひろばの演奏でした。その後の加来先生の歴史(私にとってへえ〜)のお話、くすくす笑いながら聞いていました。歴史って面白いですね。私たちは子孫にどんな歴史を残せるのでしょうか(?)  
佐世保市木風町●西 照美

■歴史の話がこんなにも面白く感じるとは思いもよりませんでした。お陰様にて時代劇を観る視点が変わって来そうで楽しみです。自ら時代考証をしながら観たいものです。チグハグな場面を沢山見つけたいと思います。今日から楽しみが増えました。ありがとうございました。  
佐世保市折橋町●田口 清紀

■加来講師を迎えて、歴史の裏に隠されたことをNHKの大河ドラマをはじめ、色々な例を出しながら語られました。日本の歴史を疑ってかかること、考えてみることも大事なことだと知らされました。龍馬伝をはじめ織田信長 etc. 感動的な話、ありがとうございました。  
佐世保市桜木町●原 敏朗

■夢のひろば邦楽演奏素晴らしかったです。「春の海」は私にとって特別な曲で、想い出が走馬燈のように蘇りました。加来耕三氏のお話も、以前にラジオでお聞きした時に面白く、今回のお話も楽しみにしていましたので興味津々で、今の日本にとっても大切なことだと考えさせられました。  
佐世保市上町●松尾 雅子

■大きな拍手の中に登壇された氏は、恰幅も良く自信满满にお見受けした。フロアとの言葉のキャッチボールをしながらの講演は、90分がすごく短く感じられた。「歴史ほど面白いものはない」とのお言葉は、ご自分の研究にしっかりと裏付けられたものだと思えました。「今日のアメリカは明日の日本」「中国の海軍が太平洋に出たときは、日米安全保障条約は失効する」とのお話には、なるほどと思つた。  
佐世保市京坪町●太郎浦 幸子

■歴史は難しいと思ってきましたが、その殻を破ってくださいました。「その時歴史は動いた」をよく見ていました。違った角度から歴史を解いていると思つていたら、歴史家加来先生が携わられたことを知りました。「昨日があつて今日があり、今日生きて明日がある」まさに、地についた話。それは歴史から学ばねばならないことを知りました。  
佐世保市桜木町●原 尚子

■歴史とは事実を学ぶことと、未来とは過去を踏まえてからしかないとすることをユーモアを交えて話されました。歴史はロマンではない。将来の日本をまじめに考えなければ大変なことになると、心から思いました。  
佐世保市大宮町●田中 美祢

## 夢のひろば

◆日 時／2月17日(木) 午後6時00分～20分

◆演 目／ピアノ連弾

◆出 演／渋川 京子・森 亜希子

◆出演者紹介

一昨年の、アルカスロビーコンサートスペシャルでの2台ピアノの演奏を機に、また2人で演奏したいと思っていました。今回その機会を頂き感謝しています。

◆曲 目

1. ハンガリー舞曲 1・5・6番

ヨハネス・ブラームス

2. スラブ舞曲 op.72 2・1番

アントニン・ドヴォルジャーク

オーストリア国家奨学金に応募したドヴォルジャークの作品が、選考委員をしていたブラームスに高く評価され、ブラームスは自分の作品を出版している「ジムロック」にドヴォルジャークの作品を出版するように尽力しました。

{ハンガリー舞曲}で大成功していた「ジムロック」は、チェコの民族的な舞曲をブラームスと同じように出版する事を持ち掛け、ドヴォルジャークは同年中に{スラブ舞曲}の作曲を始めました。

共に連弾の代名詞的曲として知られている{ハンガリー舞曲}{スラブ舞曲}から有名な5曲を演奏します。

# 日本人への警鐘 — 過去の歴史をどう学び生活にどう活かすか

を考えること、それは過去のことにすべての答えはあるのでしょね。語り合わなければ理解も出来ないでしょう。歴史学とは数字と文献をひもとくとき、冷静に地に足をつけて考えることと実に明快な語り口でした。歴史は本当に過去のレールの上で今日があると考えさせられました。本当に眼からウロコの話は、日本人だけに通じる過去の人物の人氣投票の共通点、それはなんとその人物たちがよく分らない事とは。人生の途中で別の人に変身、生まれ変わる。なるほど呑気でお人好しの日本人が好きなのサクセスストーリーでしょうか。今の混沌とした日本の7、8年後を具体的に知りたければ、アメリカの現代史を読んだ下さいとのこと。日本のこれ

## 講演を聴かれた感想をお待ちしています！

※締め切りは講演日の1週間後(必着)  
※宛先は、させほ夢大学事務局まで

からがどうなるのかと思ってる一人として、早速その本を読んできて、「立ち止まって考えて」みましょうか・・・

### すぎな夢のひろば

佐世保市黒髪町 山中キヨ子

新年を迎えての夢大学・・・少々の寒さも何のその、この日が待ち遠しい一人です。

お正月にふさわしい夢のひろば・・・箏と尺八の音色を拝聴出来て、この1年間も皆様に幸あれと願いつつ、とてもうれしく・・・短い時間だけですがありがとうございます。

歴史のことはチョットと苦手な私でしたが、講師の方のお上手な次から次と出る内容に聴き入

ったものですが、歴史のお話の評価は他の人にお頼みするとして、夢のひろばの方によりしくお伝えくださいます。

ありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願致します。

### 歴史学の考察について

佐世保市峰坂町 本山 正喜

山本茜山先生による、日本の伝統邦楽尺八の吹奏と三絃の演奏は、よくハーモナイズされて私語一つない深々とした会場に響き渡った。正に平成23年の夢大学の初講演を飾るにふさわしい幕開けだった。

今回は歴史家・作家の加来耕三氏の登壇。

日本人は耐えて耐えるけれども、耐えきれないことはない。「泥棒を捕えて縄をなう」というのが、日本人の特徴。北朝鮮からの難民が対馬・壱岐・九州に来たならばどうしよう。彼らは、危険だから中国へは行かない。私も日頃からこのことを懸念していた。国家のことのみならず個人についても、将来を予測して対策を講じておくことが必要ではなからうか。

1. 歴史を日常生活で疑ってかかること

2. 感動した点、奇跡や偶然は歴史学にはならない。

3. 数字を重視することが大切。客観的に立ち止まるという作業を冷静に考えてほしい。どうすれば歴史を具体的に仕事や日常生活に活用できるか。

氏は歴史学の専門家としての立場から、滔々と語り続けた。分かるようで分からない点もあった。が、遠い過去の歴史の真実を知ることは、私共素人には不可能に近い。ただ奇跡や偶然は歴史学にはならないということだけは分かった。歴史学の真実を知ることがいかに難しいかを知らされた。また今後テレビドラマの観賞や日本史を勉強する際には、多くの示唆を与えて頂いたことは有意義であった。

### 次世代の子供たちへ

佐世保市比良町 岡井 眞紀

学校教育でも必修となった邦楽の明るく前向きな音色に「モ

手にとるように歴史がわかる！

目がテンになる加来さん節！



1ツアルトを聴かせて胎児の安定を図るより、日本文化の琴や尺八の響きの方が、感性や想像力を養えるのでは？」と、夢のひろばの舞台の白銀に、早春を想わせる花々と音色の力強さとの美しいコラボに魅せられました。

加来氏の、日本の7、8年後は米国の現代史を読めば解るという歴史学の観点からの講演は、アメリカナイズされてる佐世保の一市民としてもショッキングなこと、次世代の子供たちの未来を憂い、帰宅して、風邪で休講した娘に氏の「国民の一人頭700万円の借金の話」をすると、「知らんかった」と一喝されました。氏はNHKを批判されましたが、改めて「そのとき歴史が動いた」の面白さや無料のアクセスの数の凄さを思い出しました。

インターネット時代に私もボチボチついていくことに！・・・新年早々気合いを入れて頂きまし

# ふるさと紀行 九十九島の 民話

10

## 「音無瀬」「白瀬」

佐世保工業高等専門学校  
澤田 彰

### ■九十九島で一番きれいな島 「音無瀬」

—むかし雨乞いの島だった—

むかし九十九島の中で一番きれいとされる島があり、そこは天国のような島で鳥が歌い、きれいな花が咲き、動物も幸せに暮らしていました。でも人は住んでいませんでした。

ところが、ある大嵐の翌朝、どこからか人間が流れ着きました。人間たちは花を摘み、動物たちを食べ、鳥をかごに閉じ込めてしまいました。そうしているうちに食べ物はなくなり、人間も一人二人と減って誰もいなくなりました。それで、もうこの瀬には音もなく、「音無瀬」と言われるようになりました。

また、こんな話もあります。

金重島と高島のほぼ中間、浮瀬の北方に暗礁があります。波穏やかな干潮時に、海底を見ると約十尋の下に大岩が並び立ち、その上は一枚の岩で覆われて、ちょうど鳥居のように見えます。そんなことから、昔から、ここは竜宮の正門だと言われています。

干ばつが続いて田畑がひからびてくると、農民たちは雨乞いをしました。彼らは燃えさかる焚き火を舟に乗せて持参し、この音無瀬に流しました。(門の中に潜む竜をよびだし、天に昇らせて雨を降らせようというのである。)

こんな行事が、まだ明治の頃まで行われていたといいますが、いかにも海浜の農村らしい雨乞い行事です。(今は音無瀬の島の形はなく、一年に一回大潮の時、見えるかどうかと言われている。)

### ■魚を食べ過ぎて動けなくなったサメの島「白瀬」

—モリを打ち込んだように  
立つ灯台—

むかしむかし、佐世保の港に小魚を追って入ってきたサメが、食べ過ぎて動けなくなり、そのまま島になつてしまいました。

佐世保港外の難所、港口およそ四キロのところに、まるで大きなサメが天空に向かって口を開けているような島、それが「白瀬」です。

大しけの時など、島の上の灯台ごと大波に隠れてしまうほどの小さな島ですが、小島などとは違うものなら、それこそ大変な目にあうということです。

島の周りには、その十五倍もの広さの瀬が不気味に広がっているからです。

「嵐の時など、ここを通るたいていの船がまるで、あの大ザメの口に呑まれるようにして沈んでいったね。だから、船乗り達は魔の浦と呼んで怖がったよ。でもそれも昔語りだ。あの大ザメの鼻つ柱にモリで打ち込んだような格好に灯台がたつたとたんに事故はばつたりなくなつたよ」と老漁夫はこう言っています。

灯台が立ったのは、佐世保に軍港が出来て間もない明治二十七年(一八九四年)、これから、この白瀬灯台は、くる夜もくる夜も赤白の光ぼうを八海里の海上に照らして、海ゆく船を守っています。しかし、ここは「喜びも悲しみも幾年月」の灯台守の哀歌はない。なぜなら無人灯台だからです。



### ●ご執筆に感謝!

「九十九島」「枕島」でスタートした「九十九島の民話」は、今号で完結となります。西海国立公園の中心ともいべき九十九島はあまりにも有名ですが、実際には208を数える島々の中で、それぞれいわれがある島も少なくないようです。

蛇島・一里島・桂島をはじめ、代表的な島についての言い伝え等を1年間にわたって興味深く執筆頂きました澤田彰さん、本当にありがとうございました。

●来年度20期の「ふるさと紀行」は「ふるさとの山々」と題して、その歴史と民俗について、筒井隆義さん執筆をお願いしています。筒井さんは第16期「ふるさと懐旧紀行」にも執筆頂いた方です。どうぞご期待下さい。

●来年度はさせば夢大学もいよいよ成人式を迎えることとなりました。20期生の会員申し込みは、皆様の関



心がますます高まり、あつと言つ間に定数に達しました。その後はキャンセル待ちの方を除いて、残念ながら多くの方にお断りの葉書を投函しました。

郵便振込票は2月10日過ぎにお届けできそうですが、2月22日の期限までに振り込みがなければ、キャンセル待ちの方を繰り上げますのでご了承下さい。

3月20日頃までには「緑色の学生証」をお届けすることができそうです。もう少ししばらくお待ちください。

●平成22年度も、させば夢大学会報「夢のつづき」をお読み頂きありがとうございます。平成23年度は、させば夢大学が誕生して20周年の一つの節目の年となります。講演会では創立20周年特別企画も予定していますが、「夢のつづき」も更に皆様方に親しまれる紙面作りに努力します。今後ともよろしく願います。

●来年度はさせば夢大学もいよいよ成人式を迎えることとなりました。20期生の会員申し込みは、皆様の関